

## 南アメリカ・オセアニア 州

名前

- 問1 南アメリカ南部に位置し、西側にアンデス山脈、東側に広大な草原であるパンパが広がる国の産業について、正しい説明はどれですか。なお、この国における自動車の統計では、国内生産台数が約47万台であるのに対し、販売台数が約90万台に達しています。 (2020年 東京都公立入試 類似)
1. 農畜産物の輸送用トラックの需要や隣国との貿易状況が自動車生産に大きな影響を与えており、周辺国と結ぶ高速道路の整備も進んでいる。
  2. 広大なパンパの全域でバイオ燃料の原料となるサトウキビが栽培されており、世界に先駆けてアルコール燃料車の普及が進んでいる。
  3. アマゾン川流域の熱帯雨林開発を背景に、世界最大級の鉄鉱石産出量を誇る重化学工業が南米で最も発達している。
  4. アンデス山脈から産出される銅の輸出が経済の柱であり、自動車などの工業製品のほとんどを日本や中国からの輸入に頼っている。
- 問2 銅の需給に関するある統計資料において、鉱山から直接採り出された「産出量」が約20,500千トンであるのに対し、製品の原料として供給された「生産量」は約24,400千トンとなっており、生産量が産出量を大きく上回っています。このように、生産量が産出量を上回る主な理由として、現代社会で行われているどのような取り組みが挙げられますか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
1. 過去に採掘して保管されていた在庫を放出し、市場への供給量を調整しているため
  2. 技術革新によって、同じ量の鉱石から抽出できる金属の割合が大幅に向上したため
  3. 不足分を補うために、海外から未加工の鉱石を大量に輸入して備蓄しているため
  4. 廃棄された製品などから回収された再生资源が、リサイクルされて再び利用されているため
- 問3 オーストラリア大陸に位置し、世界遺産にも登録されている「ウルル (エアーズロック)」と、その周辺地域の歴史的・文化的背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 先住民であるマオリが自然崇拜の対象として守ってきた場所であり、現在はニュージーランド最大の観光地となっている。
  2. 先住民であるアボリジニが聖地として大切にしてきた場所であり、現在はその文化的価値も認められ、世界遺産に登録されている。
  3. ヨーロッパからの移民が大陸開拓の拠点として建設した城塞であり、現在はオーストラリアの歴史を伝える博物館となっている。
  4. 乾燥帯の厳しい環境に適応した先住民が、地下に居住空間を作るために掘り進めた巨大な洞窟群である。
- 問4 オーストラリアの統計的特徴として、人口に対する自動車保有台数が多く、それに伴い二酸化炭素排出量も多くなる傾向がある。このような統計結果が生じる地理的な背景として最も適切な説明はどれか。 (2017年 静岡県公立入試 類似)
1. 広大な国土に対して人口密度が低く、都市間の移動や物資の輸送に自動車が必要不可欠な社会構造であるため
  2. 国内の鉄道路線網が世界で最も密に張り巡らされており、駅までの移動手段として自動車が普及したため
  3. 政府が二酸化炭素の排出を促進することで、国内の余剰なエネルギー資源を消費する政策をとっているため
  4. 自動車の総生産台数が世界第1位であり、安価な国産車が国民全体に行き渡っているため
- 問5 南アメリカ大陸の西側にそびえるアンデス山脈の断面的な特徴に関連して、この地域の住民の生活様式を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 山脈の断面形状が平坦であるため、大規模な機械を導入した小麦の企業的穀物農業が山岳地帯のいたるところで展開されている。
  2. 険しい地形を活かして、大陸を東西に結ぶ大規模な鉄道網が発達しており、山脈を越えた貿易が経済の中心となっている。
  3. 標高が高くなるにつれて気温が下がるため、高地ではジャガイモなどの栽培やリヤマ、アルパカの放牧が行われている。
  4. 標高が高い地域ほど温暖になるため、山頂付近ではコーヒーやサトウキビの栽培が盛んに行われている。
- 問6 2022年の日本の貿易相手上位国に関する統計において、資源の供給地として重要な役割を占めている国があります。この国は、鉄鋼の原料となる鉄鉱石や、アルミニウムの原料となるボーキサイトの産出量が世界有数であり、日本にとって不可欠な貿易相手となっています。この国はどこですか。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
1. ニュージーランド
  2. 南アフリカ共和国
  3. ブラジル
  4. オーストラリア
- 問7 南アメリカ大陸の大部分を占めるブラジルでは、1980年代の輸出統計においてコーヒー豆が圧倒的な割合を占めていました。このように特定の農産物や資源の輸出に依存する経済構造を「モノカルチャー」と呼びますが、近年のブラジルの産業の変化について述べた説明として、適切なものはどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
1. かつてはコーヒー豆への依存度が高かったが、現在は大豆やサトウキビなどの農産物に加え、鉄鉱石などの鉱産資源の輸出も拡大し、産業の多角化が進んでいる。
  2. 1980年代から現在に至るまで、一貫してコーヒー豆とバナナの輸出が国内総生産の半分以上を占めるモノカルチャー経済が維持されている。
  3. サトウキビの生産からコーヒー豆の生産へと栽培品目を集約したことで、特定の農産物に特化した経済構造がより強まっている。
  4. 農業を縮小して原油の採掘と輸出に特化する政策をとったため、現在は世界最大の原油輸出拠点としての地位を確立している。
- 問8 南アメリカ大陸のエクアドルにある都市キトと、ブラジルの都市マナオスは、ともに赤道のすぐ近くに位置しています。しかし、キトの年平均気温はマナオスに比べて10℃以上低くなっています。キトの気温が低くなる主な理由として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選びなさい。 (2022年 青森県公立入試 類似)
1. マナオスよりも高緯度に位置しているため
  2. 季節風の影響で冬の寒さが厳しいため
  3. アンデス山脈の中にあり、標高が高いため
  4. 沿岸を流れる寒流の影響を直接受けるため
- 問9 1965年から2015年にかけてのオーストラリアの輸出統計では、輸出総額が約30億ドルから約1880億ドルへと大幅に増加しました。この期間における輸出品目の構成の変化について述べた文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
1. 輸出総額は大幅に増加したが、石炭の需要が世界的に低迷したため、鉱産資源の輸出割合は1965年よりも低下した。
  2. 輸出総額が拡大する中で、羊毛や小麦などの農産物中心の構成から、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源中心の構成へと変化した。
  3. 輸出総額が拡大する中で、鉄鉱石などの鉱産資源中心の構成から、羊毛や小麦などの農産物中心の構成へと変化した。
  4. 輸出総額は大幅に増加したが、輸出全体に占める羊毛の割合は一貫して最も高い数値を維持している。
- 問10 ニュージーランドのような島国が、その国土面積に比して広大な排他的経済水域を保持できる理由として、国際的な取り決めに照らして最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
1. 沿岸から200海里までの海域において、漁業資源や海底資源を独占的に利用する権利が認められているため
  2. 沿岸から12海里までの範囲を領海とし、さらにその外側の一定範囲を自由に占有できるため
  3. 南極条約に基づき、南半球の島国には北半球よりも広い管理水域が割り当てられているため
  4. 領土の広さに関わらず、すべての島国には一律の面積の経済水域が配分される仕組みがあるため

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                                   |                                                                                                                                                                                                             |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 1<br>農畜産物の輸送用トラックの需要や隣国との貿易状況が自動車生産に大きな影響を与えており、周辺国と結ぶ高速道路の整備も進んでいる。           | アルゼンチンは、広大な草原であるパンパを活かした農牧業が盛んなため、それらを運ぶトラックの需要が自動車産業と密接に関わっています。また、メルコスール（南米南部共同市場）などの枠組みを通じて隣国との貿易が盛んであり、経済状況が生産台数に影響を及ぼすほか、物流を円滑にするためのインフラ整備も重要な課題となっています。他選択肢にある「アマゾン川」や「世界最大の鉄鉱石」はブラジル、「銅の輸出」はチリの特徴です。 |
| 問2  | 答え 4<br>廃棄された製品などから回収された再生資源が、リサイクルされて再び利用されているため                                 | 金属資源の「産出量」は鉱山から新しく採掘された量を指しますが、「生産量」はリサイクルによって回収された資源も含まれます。銅などの資源において生産量が産出量を上回っているのは、使用済みの電化製品などから資源を回収し、再び原料として活用する仕組みが整っていることを示しています。                                                                   |
| 問3  | 答え 2<br>先住民であるアボリジニが聖地として大切にしてきた場所であり、現在はその文化的価値も認められ、世界遺産に登録されている。               | ウルルはオーストラリアの先住民アボリジニの聖地であり、単なる自然地形としての価値だけでなく、先住民の伝統文化との深い関わりが評価され、世界遺産（複合遺産）として登録されています。マオリはニュージーランドの先住民であるため、オーストラリアの事例としては不適切です。                                                                         |
| 問4  | 答え 1<br>広大な国土に対して人口密度が低く、都市間の移動や物資の輸送に自動車が必要不可欠な社会構造であるため                         | オーストラリアは日本の約20倍という広大な領土を持ちますが、人口密度は非常に低く、人々は点在する主要都市やその郊外に居住しています。このような環境下では、公共交通機関だけでは網羅しきれない長距離移動や日常の買い物に自動車が必須の道具となります。そのため、先進国の中でも自動車保有台数の割合が高くなり、それが排出ガスによる二酸化炭素排出量の増加という環境課題にも直結しています。                |
| 問5  | 答え 3<br>標高が高くなるにつれて気温が下がるため、高地ではジャガイモなどの栽培やリヤマ、アルパカの放牧が行われている。                    | アンデス山脈は標高が非常に高く、高度が上がるにつれて気温が下がる垂直的な気候の変化が見られます。住民はこの環境に適応し、低地では熱帯の作物を、高地では寒冷な気候に強いジャガイモの栽培や、家畜としてリヤマやアルパカを飼育するなど、標高に応じた多様な生活を営んでいます。また、低地よりも過ごしやすい標高2,000m～3,000m付近に都市（例：ラパスやキト）が形成されることも特徴です。             |
| 問6  | 答え 4<br>オーストラリア                                                                   | 日本は工業原料の多くを輸入に頼っており、広大な国土に豊富な地下資源を持つオーストラリアは主要な輸入先です。特に鉄鉱石、石炭、ボーキサイトなどの鉱山資源の輸出が盛んで、日本の経済を支えるパートナーとなっています。また、かつて行われていた羊毛の生産に代わり、現在は鉱業や液化天然ガス（LNG）などのエネルギー資源が輸出の主流となっています。                                    |
| 問7  | 答え 1<br>かつてはコーヒー豆への依存度が高かったが、現在は大豆やサトウキビなどの農産物に加え、鉄鉱石などの鉱産資源の輸出も拡大し、産業の多角化が進んでいる。 | ブラジルはかつて特定の農産物に依存するモノカルチャー経済の傾向が強く、国際価格の変動が国内経済に大きな影響を与えていました。しかし、近年ではセラードと呼ばれる地域の大規模開発により大豆の生産が急増したほか、バイオ燃料の原料となるサトウキビ、さらには世界有数の産出量を誇る鉄鉱石、航空機などの工業製品といった輸出の多様化が進み、経済の安定化が図られています。                          |
| 問8  | 答え 3<br>アンデス山脈の中にあり、標高が高いため                                                       | 一般的に気温は標高が100m高くなるごとに約0.6℃下がります。マナオスはアマゾン川流域の低地に位置しますが、キトは標高2800mを超える高地に位置しているため、赤道直下であっても一年中涼しい「常春」のような気候となります。同じ赤道付近にあるため緯度の違いは理由にならず、山岳都市であるキトの気温差の主たる要因は海流ではありません。                                      |
| 問9  | 答え 2<br>輸出総額が拡大する中で、羊毛や小麦などの農産物中心の構成から、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源中心の構成へと変化した。                  | 1965年時点では、輸出総額に占める割合は羊毛が29.3%、小麦が12.7%と農産物が上位を占めていました。しかし、2015年には鉄鉱石が19.6%、石炭が15.2%となり、鉱産資源が主要な輸出品目となっています。この50年間で、オーストラリアの経済構造は農産物依存から、豊富な地下資源を活用した鉱産資源依存へと大きくシフトしました。                                     |
| 問10 | 答え 1<br>沿岸から200海里までの海域において、漁業資源や海底資源を独占的に利用する権利が認められているため                         | 国連海洋法条約により、沿岸国は海岸線から200海里（約370km）までの範囲を排他的経済水域（EEZ）として設定できます。この水域内では、漁業資源（魚介類）や鉱物資源（天然ガスや海底熱水鉱床など）の探査・開発に関する主権的権利が認められています。ニュージーランドは四方を海に囲まれた島国であるため、このルールによって国土の何倍もの広さの海域を自国の経済活動に活用できる仕組みになっています。         |